

# 景況レポート

(7月分・情報連絡員60名)

## 全体景況DI値が2ヶ月連続で上昇

### 【概況(全体)】

7月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが6.7%(前回調査3.3%)、「悪化」が68.3%(同75.0%)で、業界全体のDI値は-61.6となり、前月調査との比較では10.1ポイント上回った。

本県の景況DI値は、東北・北海道ブロックよりも上回ったものの、全国と比較して上回る結果となった。

### 【業界別の状況】

新型コロナウイルス感染症の影響が長く続いているが、製造業・非製造業ともに「悪化」割合が減少しており、全体景況DI値は5月を底として、2ヶ月連続で上昇した。

県外との往来ができるようになった6月半ば以降、コロナ対策を講じた上での経済活動が本格化し、各種施策の効果もあり、景況感は改善されてきている。

しかし、7月半ば以降に新型コロナウイルスの感染が拡大し、今後の先行きが不透明な状況となったこともあり、前月に比べてDI値の上昇の幅は小さくなった。

### <全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-61.6	-67.1	-59.6
製造業	-70.9	-73.0	-63.4
非製造業	-55.5	-62.7	-57.4

### <景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

### 【凡例】

快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り △10以上 △30未満  
 雨 △30以上 △10未満  
 雷雨 △30以下

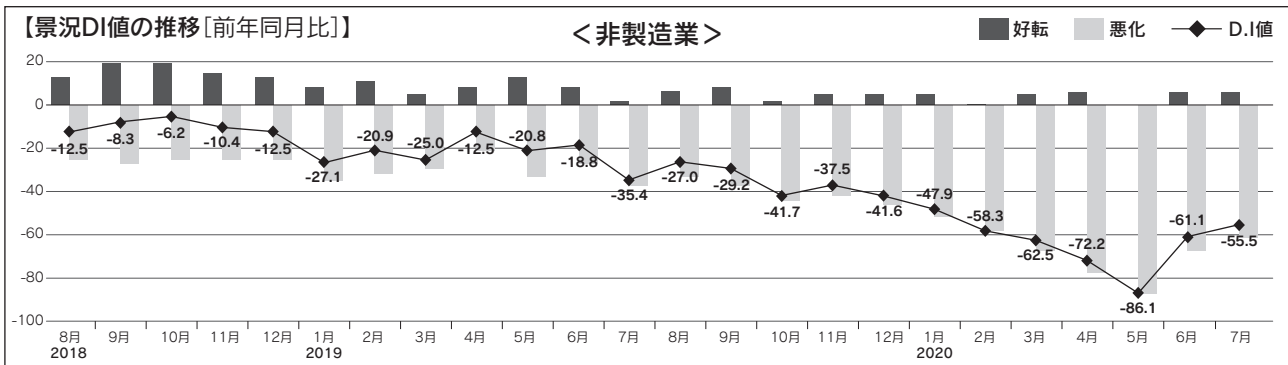
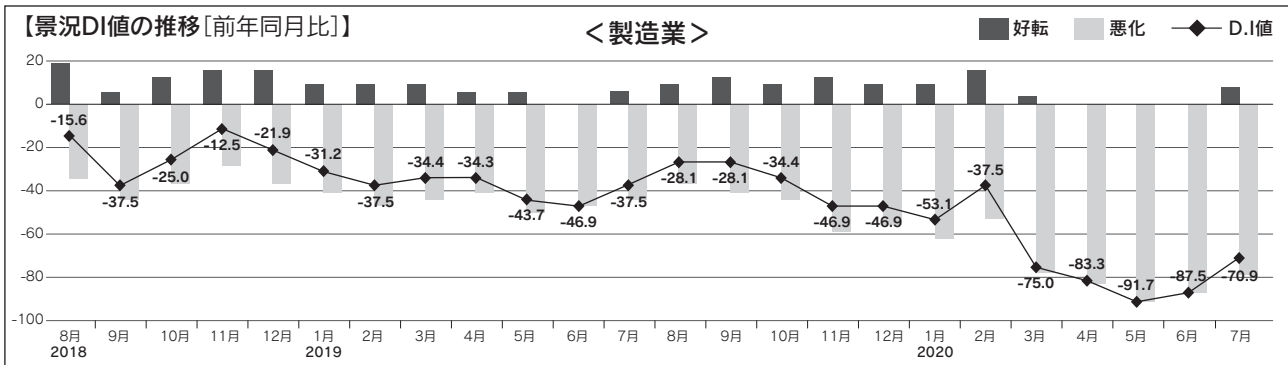
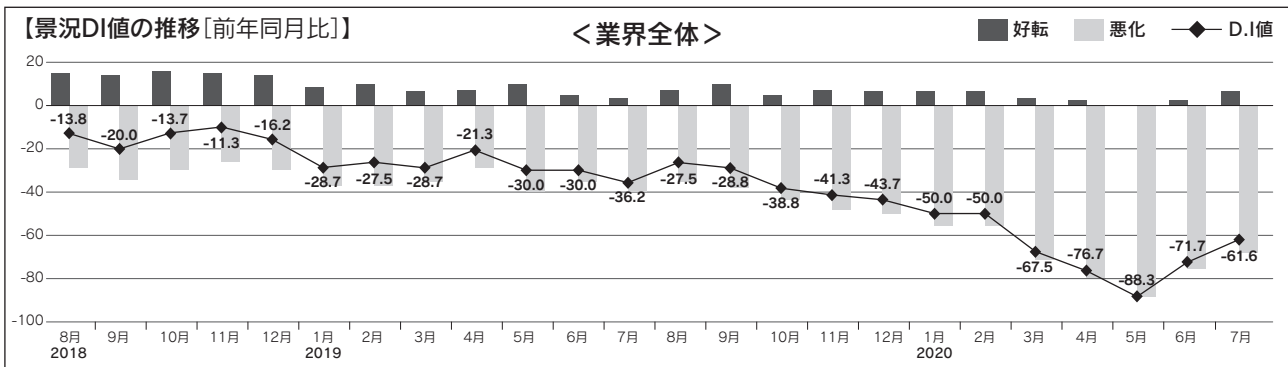
【天気図の見方】  
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ~製造業~

(回答数：24名 回答率：100%)

食料品 (パン)	新型コロナウイルス感染症で売上は低調に推移しており、特に菓子パンが低調である。行事や催事の中止による影響が大きい。
食料品 (米飯給食)	販売は、学校給食では実施日が増加したことで前年比146.7%となったものの、特注弁当では新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント減によりキャンセルの急増で前年比59.5%、宅配弁当は平日が少ないことにより前年比96.3%となり、全社では98.2%で推移した。収益は、イベント関連の特注弁当減少により多大な影響を受けた。
繊維工業 (ニット)	先月よりファッション衣料の仕事が増えているが例年と比べるとかなり少ない。医療用ガウンで凌いでいるが10月以降については見通せない状況である。
木材・木製品 (一般製材)	7月も新型コロナウイルス感染症による営業自粛、住宅展示場閉鎖等によって、売上が15%減少した。8月は更に荷動きが停滞し、売上減少による資金繰りは厳しい状況となる見込み。荷動き低迷の期間が不透明ではあるが、9月からゆるやかに回復するとの見方もある。製品出荷量が減少しており、原木の仕入量も15%程度受入れ量の調整を行っている。
木材・木製品 (素材生産)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一般製材、合板材工場の生産、販売量が5割減少したことから素材生産業者が生産した素材の在庫が増加した。今後、消費が回復しない場合、在庫の劣化(虫害)が進むことによる販売価格の低下に伴い、素材生産業者の資金繰りが厳しくなることが予想される。
印刷 (印刷)	新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、売上が減少している企業が増えている。資金繰りの悪化は小規模事業者ほど厳しい状態になっている。今後、組合員も含めて得意先の倒産・廃業が懸念される。
鉄鋼・金属 (機械金属)	新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、収益状況は悪化の一途をたどっている。先月に引き続き、見積り物件がほとんどなく、売り上げは5割~6割と落ち込んでいる。なかには、4割という企業もあり深刻な状況である。
一般機器 (金属加工)	受注が戻らず、組合員の中で一時帰休を実施している企業が出ており、他の組合員でも一時帰休を検討しているところがある。雇用調整助成金の申請や金融機関からの借入等を行っても資金繰りが厳しい状況にあり、依然として先が見えない。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：36名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	売上高は前年同月比104.1%で推移した。7月は新型コロナウイルス感染症による自粛が一段落し、青果物の動きも活発になると期待していたが、ホテル業界や飲食業界等については、売上的大幅増とはならなかった。また、全国的な天候不順の影響を受け、商品の価格高騰及び品不足等を招き、売上は前年を上回ったものの、利益は出しづらい状況であった。特に、果物の入荷量が不安定で、実績に大きく影響した。
卸売業 (古紙)	価格は下げ止まりとなっている。回収量は-3.9%(18,030kg)となっており、新聞は-15.1%(33,400kg)と大幅に減少した。発行部数減、ページ数減、折り込み広告減が要因である。コロナ禍による紙面広告の減少やスポーツイベントの中止により、記事が減ったため、ページ数減につながった。
小売業 (みやげ品)	7月は対前年比40%まで回復したが、7月末からコロナウイルス感染拡大に伴い、観光客の移動が減少しているようで、今後の見通しは不透明である。
商店街	新型コロナウイルスの影響で状況が悪化、また個人消費も悪化しており、加えて6月末でキャッシュレス還元事業が終了したことから、厳しい状況になっている。(秋田市) 過去最低の売上水準に落ち込んでいる。感染者が出ていないものの、自粛状態となっており、衣料品店は仕入が困難となっている。(鹿角市)
サービス業 (建築設計)	新型コロナウイルス感染症の影響としては、工事監理業務において工事の工期延長になった物件が1件あるがそれも落ち着きつつあり、全体受注量も昨年並みで推移している。
サービス業 (タクシー)	外出自粛ムードも和らぎ、一部地域では観光客の動きが出始めているようだ。また、繁華街での回復がタクシー利用にも結びついてきており、雇用調整を行っている一部では、急遽、出勤を命じている事業者もあり、想像より回復は早くなっているようだ。ただ、回復の実感を得るには、2~3ヶ月を要すると考えている。
建設業 (建築リフォーム)	新型コロナウイルス感染症の影響により3~5月は動きがなかったが、6月後半から7月にかけて少し動きが出始めた。
運輸業 (トラック)	7月の輸送状況は、かつてないほど悪く、売上・収益ともに減少傾向である。例年は繁忙期に入る時期であるが、今年は荷動きが悪いまま推移し、売上、収益ともに前年同月比で減少した。